

ISO14001とエコアクション21 ～ 中小企業の環境問題とその対応～

一般財団法人 大阪科学技術センター

ATAC 会員 白石博章 多根井重裕

1. はじめに

昨今中小企業経営にとって地球温暖化、有機化学物質の管理、産業廃棄物の削減、汚染物質の拡散防止は重要な課題であり、官公庁、大企業からの要望も強くなってきています。2012年の夏は原発停止の影響が大きく、特に関西電力圏内では電気使用量の節減、対策が急務になってきています。従って経営トップは頭では考えていても後回しになる傾向の強かった環境問題に今こそ真剣に取り組み、強いリーダーシップを発揮して守りから攻めの環境経営にシフトしていかなければなりません。

企業においては環境問題に対応するためにISO14001を取得する企業が多くなり、さらに最近では中小企業に適したシステムとしてエコアクション21を導入する企業も見受けられます。以下にこの両者の特徴について述べたいと思います。

2. ISO14001環境マネジメントシステム

トップ主導で全社的に推進し環境関連法規の遵守の下、目標を明確にしてこれを組織的に実現し、継続的に改善していく仕組みを構築、運用していくことが要求されます。

- 1) 「環境パスポート」とも呼ばれ、世界各国のあらゆる国、業種、規模の組織に適用されている汎用性のあるシステムになっています。
- 2) 規格要求事項は会社の実情に合わせて決め、審査ではその適合性、実効性及び有効性が重点的に評価されます。
- 3) 規格要求事項は審査登録制度における審査の基準になっており、PDCAを回すことによって環境目標を継続的に達成、改善し、企業の社会的責任を果たしていくことが求められます。
- 4) トップダウン型のシステムであり、責任と権限の明確化、組織の活性化などトップの経営目標に沿った組織運営ができるなどのメリットがあります。

3. エコアクション21 (EA21)

ISO14001は人手、資金などの問題で中小企業には導入し難い問題があります。この問題を解決するために2004年に環境省が定めた認証登録制度です。

- 1) ISO14001をベースに構築され、環境管理の

ための社内体制作りが大変な中小企業で取り組み易いマネジメントシステムとして制定されています。

基準事項を判り易く盛り込み、負荷の把握、対策のチェックが簡単にできるように工夫されています。

- 2) CO₂排出量、産業廃棄物の排出量、水使用量の3項目を把握し削減するために省エネ、リサイクルに取り組むことが必要になってきます。
- 3) 環境活動報告書（環境方針、取組実績など）を作成し公表することが義務付けられ、これにより取引先、消費者からの信頼性が高まり、事業拡大に繋がっていきます。

4. EA21とISO14001の比較

- 1) 審査登録費用は、事業の規模、業種により異なりますが、EA21の場合15～45万円でISO14001に比べて1/10程度になります。EA21が2年、ISO14001が3年毎の更新であることを考慮しても約15%程度でかなり安くなります。これはEA21事務局は非営利法人が運営するためであります。
- 2) EA21の場合、審査は事業者が希望した個人（有資格者）が審査員になるのでアドバイス、助言を受けられるようになっています。
- 3) ISO14001は世界各国に通用しますが、EA21は日本国内のみに適用効力があり、海外的には通用しません。
- 4) EA21では、自治体による認証取得の支援（補助金、助成金）があり、認証取得に際して特別金利で融資する金融機関も増えてきています。

ATACでは過去数回クライアントにアンケート、ヒアリングを行いました。実績報告を公表することが義務付けられている影響もあり、ISO14001取得企業に比べてEA21取得企業の方が、電力監視モニターを有効に使って、きめ細かい電力管理を行っているという印象を受けました。

5. まとめ

ATACではシステム作りという点ではISO14001取得支援を継続しますが、今後は人手、資金及び電力管理面で中小企業に合ったEA21取得支援に積極的に取り組んでいこうと考えています。